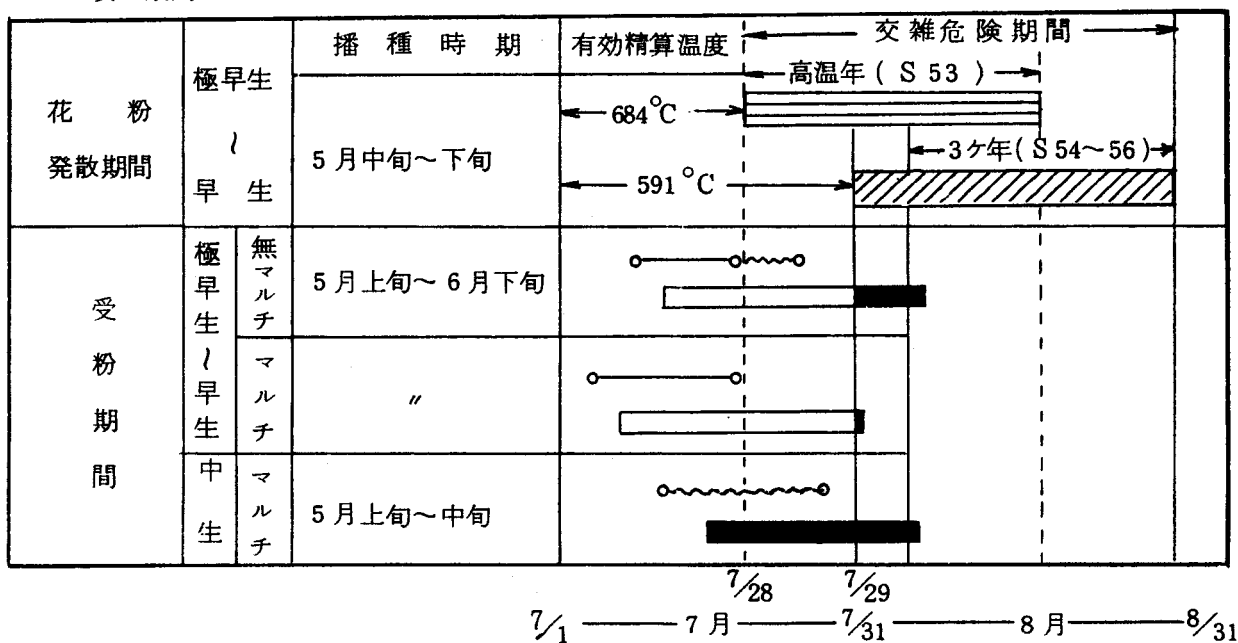


5 スイートコーンの作期によるキセニアの回避対策 (県北分場)

県北畑作地帯でスイートコーンに飼料用とうもろこしが交配し、品質を低下させる。両者の安全作期は、①スイートコーン無マルチ栽培で極早生種及び早生種は5月上旬～中旬播種まで安全であるが、中生種は全作期とも危険を伴う。②マルチ栽培では極早生種及び早生種は5月上旬～下旬播種まで安全と考えられる。

(1) 技術内容

安全期間



- ~ 高温年安全期間 (S 53)
- ~ 3ヶ年安全期間 (S 54 ~ 56)
- ~ 高温年 } 飼料用極早生トウモロコシの作付されていない場合の安全期間
- ~ 3ヶ年 }

摘要

- 1) 飼料用とうもろこしの一般的播種は、5月中旬～下旬である。
- 2) スイートコーン無マルチ栽培 — 極早生及び早生品種は5月上～下旬播種まで安全である。中生品種は全作期危険である。
- 3) スイートコーンマルチ栽培 — 極早生及び早生品種は5月上～下旬播種まで安全である。中生品種は飼料用とうもろこしの、極早生品種が栽培されない場合には、5月上～中旬播種でほぼ安全である。

(2) 指導上の留意事項

- 1) 適応範囲……岩手県北地帯とする。
- 2) 極早生品種の導入は早期から長期間にわたり交雑の危険性が増大する。導入の際は播種圃基準 300 m以上の距離をとることが望ましい。
- 3) 畜産関係機関、畜産農家等と作期と品種について相談する。
- 4) 飼料用とうもろこしの作期遅延はスイートコーンの安全期間延長されるが、畜産側からみて刈取り時期、栄養収量等から無理である。
- 5) スイートコーンの早期出荷（8月）は、價格的にも良いので、5月上旬～中旬に播種する。